

海軍

巡洋艦「摩耶」「光島」奮戦記

秋田県 渋谷 平内左衛門

私は大正十（一九二一）年に秋田県仙北郡仙内村に、渋谷家の長男として生まれ、一人っ子として育つ。家には両親の他に父方の祖母と叔母二人の六人暮らした。家は農家で稲作が主体だった。学校を卒業すると近くの三等郵便局に勤めに出た。

支那事変から既に数年経過し、物資もそろそろ窮乏しはじめていると同時に、アメリカとの関係がこじれて、いつ戦争になってもおかしくない雰囲気になっていた。

昭和十六（一九四一）年十二月に現役に徴集編入になった。検査の時にはっきりと海軍の水兵を志願した。村から海軍を志願したのは二人だけだった。検査場所が大曲小学校だったことは今でもはっきり覚えていいる。東北で海軍を志願すると秋田県の人には横須賀へ山形県の者は舞鶴で教育を受けた。大湊は要港だったが教育機関がなかったらしい。検査終了後帰宅し、翌日から再び郵便局に勤務しているうちに十二月八日を迎え、大東亜戦に突入したのである。

年が明けて昭和十七年の一月に横須賀楠ヶ浦第二海兵団に入団した。第二十七分隊第四教班である。班長（教員）は、川上吉之助上等兵曹である。その時の階級は、海軍四等水兵であった。厳しい三カ月の教育

だった。陸軍なら青年学校で習ったことも役に立ったろうが、海の上では本当の初年兵だった。苦しい教育期間が終了すると海軍三等水兵に進級した。進級と同時に、一等巡洋艦「摩耶」に乗船せよとの命令を受けた。

四月二十三日、第二次ソロモン諸島方面の海戦に参加するため横須賀を出航し一路南下した。航海中、「呉に寄港し、そこから日本海に出て、海岸沿いに大湊に向かえ」という命令の変更があった。

北太平洋アリューシャン海戦に参加した。アメリカに対する牽制のためアッツ島・キスカ島の攻撃と占領である。無血上陸に近い作戦で上陸した。

数カ月の占領の後、第二次ソロモン戦に参加のため南下した。ソロモン諸島付近の海域で奮戦の後、九月二十日、一時横須賀港に帰着した。

一カ月の休養もなく、十月十一日、第三次ソロモン諸島の戦闘に参加のため横須賀を出航した。ソロモン諸島の徳山に帰航し装備を整え出陣を待機した。

もうこの頃には緒戦の破竹の勢いはなく、よく言っ

て四分六分でアメリカ軍が優勢であり、特に航空機の数量では敵が圧倒的に優勢だった。

ガタルカナルに上陸したアメリカ軍を島から追い出すため、敵飛行場への艦砲射撃を命ぜられ砲身が真っ赤になるまで砲撃を続けた。飛行場から火の手が上がるほどの猛攻撃だった。そのうちアメリカ軍の反撃、艦上機による波状攻撃が始まり、彼我共に莫大な損傷を被った。

十一月十三日、いったん矛を収め、トラック島に引揚げの命令がでた。

昭和十七年十一月一日、海軍一等水兵に進級した。

昭和十八年二月「摩耶」は横須賀に帰港。損傷と老朽のため、遂にドック入りとなった。生死を共にし、機銃掃射を避け、潜水艦の襲撃を逃げまわり、「死ぬ時は共に」と心に誓った「摩耶」ともお別れだ。戦友の中には目をうるませる者もいた。

ある日、上官に呼ばれ「渋谷一等水兵は総領でもあるし、除隊ということも考えたが知っている通り、四年兵・五年兵の古兵がいる。その者達を優先させねば

ならぬため辛抱してほしい」と言われた。良いも悪いもない。

最初の四等水兵から出直しというわけにはいかず、班長のすすめもあり、測的術幹部候補生として横須賀砲術学校に入校した。

五月一日、横須賀砲術学校普通科測的術幹部班を卒業した。卒業と同日に巡洋艦「光島」乗艦の命令を受けた。即日、南太平洋方面の戦闘に参加のため横須賀港を出航した。

「光島」はトラック島に停泊しているので、輸送船「最上丸」でトラック島へ向かった。「最上丸」は南太平洋トラック島沖で敵の潜水艦により撃沈された。

あつという間に船は波間に沈む。油の中で泳ぐ者、浮遊物につかまる者、阿鼻叫喚、この世の地獄図だ。瞬時にして水漬く屍となり海底に沈んだ人の遺骨はどうなっているのだろうかと思うと暗然たる気持になる。

幸いにして私は他の輸送船に救助されたが、その輸送船もまた航行不能となり海防艦「福江」に救助され、潜水艦基地に避難する。

トラック島に滞在中、輸送船「知床丸」に便乗し、南太平洋のクエゼリン島に向かう。そこから漁船でマキンタロウ島まで航行し、やっと「光島」に乗艦した。

トラック島へ帰港の途中、敵の攻撃を受け大破し、トラック島で応急修理の後横須賀へ帰港し退艦した。

昭和十九年四月、大湊要港に配属された。到着した同日、大湊港を出港、千島列島の松輪島の星部隊に配属され陸戦隊勤務となる。渡航したのは「龍神丸」という輸送船だった。一年あまり松輪島の防備に服し、大任を果たした。

昭和二十年七月一日、命により大湊防備隊の勤務につくようになった。

八月十五日、ポツダム宣言を受諾し戦争は終結した。

九月一日、海軍一等兵曹に任せられ、同日、予備役編入し復員した。